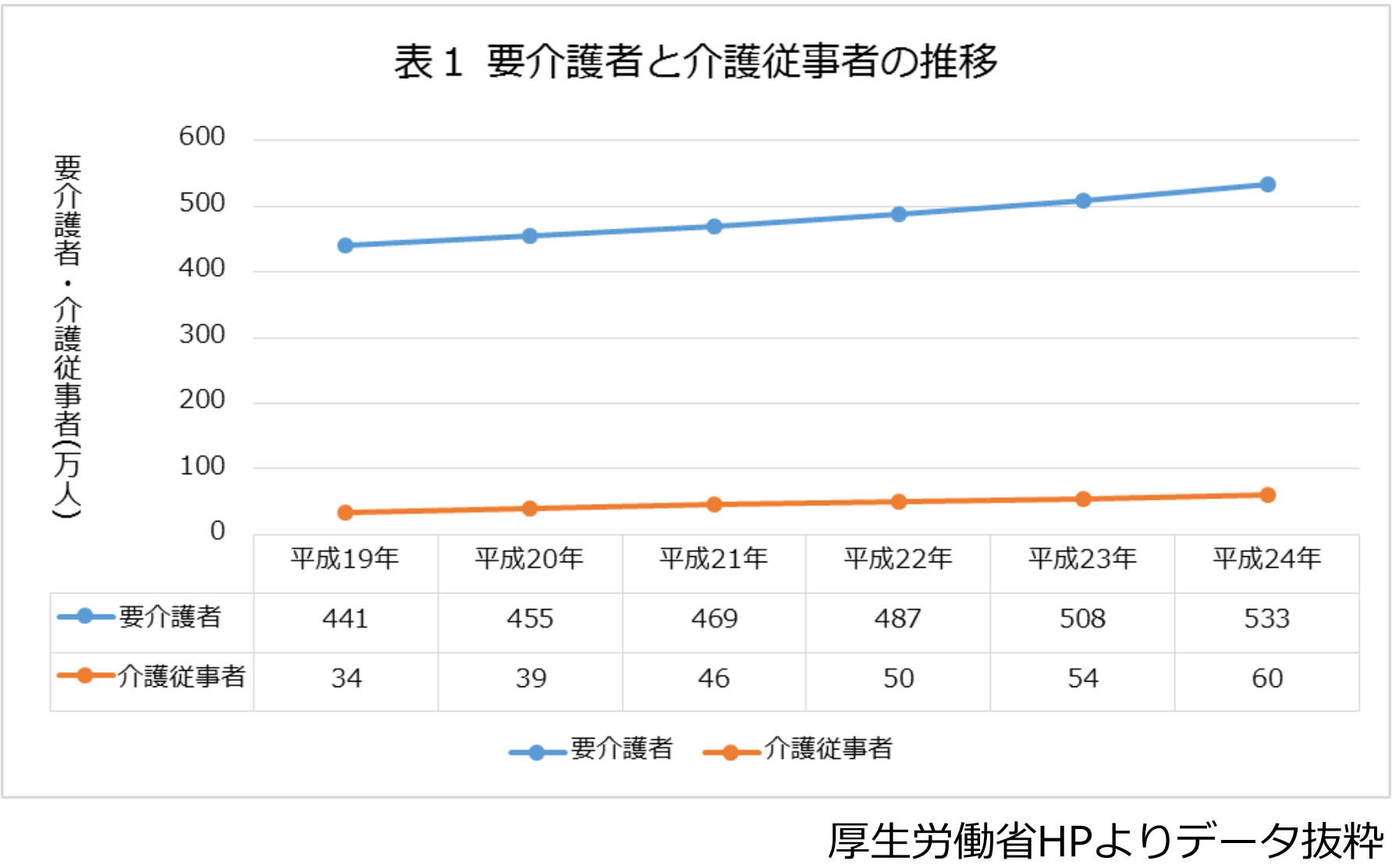


社会実装を目的とした3学科合同 介護機器開発プロジェクト

PMコース 矢吹研究室 1442069 須山 武弘

背景



状況を打開するには・・・

これらの対策が必要

- ・ 介護のオートメーション化
- ・ 介護職員の負担軽減
- ・ 外国人労働者の雇用

介護需要の増加数 > 介護職員の増加数
厳しい労働環境は人材不足等が原因である。

介護職員の負担軽減の視点から、介護機器開発をしようと考えた。

目的

介護職員の負担が大きい現状を打開するために

技術で介護現場を支える製品開発

PMとの関連

プロジェクト
マネジメント

デザイン

未来
ロボティクス

各学科の専門知識を活かした
マネジメント手法の実施が必要

方法

プロジェクトを以下の表 2 の通りに遂行し、適切なマネジメント手法を実施する。

期間	タ ス ク
7月～9月	チーム編成，現地調査，製品の提案を行う。
9月～10月	キャンパスベンチャーグランプリ（以下，CVG）応募書類の作成を行う。 ビジネスプランの作成を行う。
11月	CVG東京予選へ向けてのブラッシュアップ及び，プレゼン作成を行う。
12月～1月	試作品の作成，機構等の検討を行う。
1月～2月	試作品の作成，検証，介護関係者へ向けてのプレゼンを行う。

表 2 各タスクの期間と内容

進捗

多数の介護施設へのヒヤリングを行ない、
ブレストやKJ法を実施した。
→ 結果、トイレ介助が大きな負担であることが判明。
図 1 の「CHOICE」を提案した。

現在までの活動で、ガントチャートを使用した進捗管理、
議事録を使用した知識共有などのマネジメントを実施した。



図1 トイレ介助機器「CHOICE」の提案

今後の計画

- ・ 製品の試作，検証を行う。
- ・ プロジェクト終結フェーズへ向けてまとめを行う。